「オート三輪」の盛衰
ー忘れられた愛知の三輪メーカーー

■貨物自動車「オート三輪」

三輪自動車のうち主に貨物自動車である三輪トラックを指して、日本ではオート三輪と呼ばれている。特に軽自動車規格の軽三輪は四輪自動車より安価であり、荷台が大きい割には小回りが利き、狭い道路でも意のままに、自由に走れたため、個人商店で多く愛用された。

その軽三輪の代表格がダイハツミゼットであった。ミゼットは大阪のダイハツ工業（株）が1957（昭32）年から1972（昭47）年まで発売。当初のモデルは一人乗り、バーハンドルでキャビンの屋根と荷台は幌製、ドアはなく小径タイヤで丸みを帯びたフロントヘンダー、220ccの2サイクル強制空冷単気筒エンジン、最大積載量300kg。愛らしい親しみのあるデザインと広告やテレビCMにコメディアンの大村崑、佐々十郎を採用し、大ヒットした。ミゼットは今でも人気で、全国の「昭和の街博物館」には、必ず展示してあるほどである。

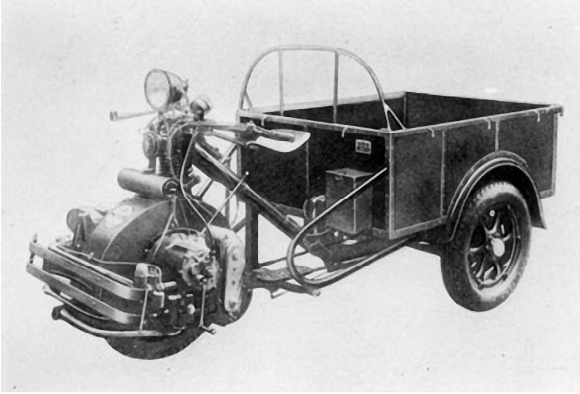
ダイハツ・ミゼット（1957）
出典：名古屋郷土二輪館

■「オート三輪」の隆盛時代と愛知のメーカー

日本のオート三輪は戦前の1930年代から戦後1960年代にかけ隆盛を極めた。戦前には国産三輪自動車メーカーは10社以上に及んだ。ダイハツ（戦前は発動機（株）で車名はツバサ）、広島の東洋工業（株）のマツダが代表であるが、愛知にも三輪自動車メーカーがあったことは意外と知られていない。

（1）前輪駆動式の水野式自動三輪車

戦前、愛知でのベストセラーはダイハツが1位、2位がミズノ、マツダは3位とミズノの人気は高かった。4サイクル水冷単気筒500ccエンジンを前輪左側面に水平横置き、ラジエターと燃料タンクは前輪右側に置き、チェーンで前輪を駆動するという独自の機構を持っていた。発案者は水野忠一、瑞穂区の水野鉄工所で製作。他に中川区の平野製作所（戦後にヒラノポップというスクーターを生産）のヒラノ、岡崎市の中央精機はあ志あ号を製作。水冷エンジンを載せシャフトで前輪を駆動した。



水野式自動三輪車（1937）　出典：名古屋郷土二輪館

（2）水冷エンジンのヂャイアント

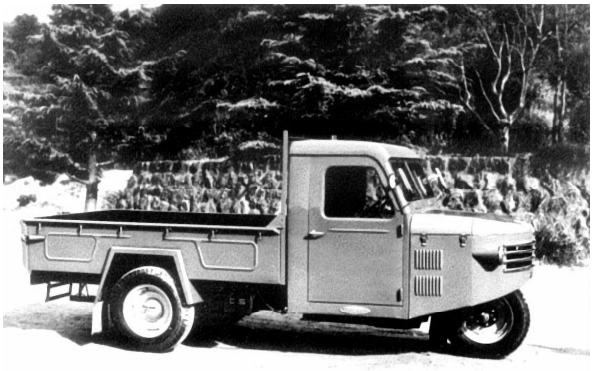
名古屋の中野嘉四郎が1931（昭6）年、ヂャイアントナカノモータースとして創業した。エンジンは高内製作所製（後にみずほ自動車製作所としてオートバイキャブトンを発売）。当時、空冷の4サイクルの単気筒エンジン350cc、500ccが主力だったがジャイアントは水冷650cc、750ccのエンジンだった。生産は後に帝国製鋲、帝国精機産業と変わっていった。

（3）戦後のヂャイアント

戦争時に彗星97、99式艦上爆撃機などを製作していた愛知航空機（株）は戦後、民需産業への転換を図る為、航空機製作の高い技術を生かそうと、1947（昭22）年にヂャイアントの製造販売権を帝国精機産業より取得した。

1951（昭26）年に発売したAA7コンドルは、新開発の水冷水平対向2気筒1145cc、41馬力エンジンを搭載。ボンネットタイプのフルキャビン。オート三輪では初めてツーライト、丸ハンドルを採用してこれまでにない斬新なエンジンとスタイルだった。

1952（昭和27）年に愛知機械工業と社名変更する。1959（昭34）年にダイハツミゼットに刺激を受けて、軽三輪自動車ヂャイアントコニーAA27を発売。360cc、4サイクルで強制空冷の水平対向エンジン16.5馬力、16インチタイヤで丸ハンドル、一つ目のライト。三輪のヂャイアントはAA27が最後で以後、軽四輪自動車のコニーシリーズとなり、1970（昭45）年に全車種の生産を終えた。



ヂャイアントAA7 コンドル（1951）　出典：名古屋郷土二輪館

（冨成一也）